

定住自立圏構想推進シンポジウムin八戸～人材の育成と交流による地域力の創造～の概要

開催日時：平成25年2月18日(月)13:10～17:00

開催場所：八戸グランドホテル 2階 グランドホール(青森県八戸市番町14番地) 参加者数:216人

取組報告：八戸市長 小林 眞 氏

八戸圏域定住自立圏では、「ドクターカー運行事業」等に取り組む他、圏域の市町村議員により八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟を組織して、定住自立圏の形成に取り組んでいる。平成24年度は、定住自立圏推進調査事業を活用し、アーティスト定住実験プロジェクト「引っ越してきたアーティスト！」を実施。八戸市南郷区にアーティストが移住し、様々な取組を通して住民と一緒に地域を元気づける活動について報告。



小林 眞 氏

パネルディスカッション「地域づくりを担う人材の育成と交流」

○ 関西学院大学大学院経済学研究科人間福祉学部教授 小西 砂千夫 氏 (コーディネーター)

定住自立圏は、自治体の枠組みを超えて連携する仕組みであり、スムーズに取組を進めていくことはなかなか難しい。八戸市は定住自立圏における先進地域。特に議員連盟を通じて交流を図り、政策課題を共有しているところは特筆すべきところ。

○ アサヒグループ芸術文化財団顧問 加藤 種男 氏 (パネリスト)

柔軟な発想のリーダーがいるところには、創造的な人材が集まる。アーティストが自分の思いを表現するばかりでなく、地域住民の思いを表現する手助けをすることで、一人ひとりが主役となり、生きがいを持って生きていけるような地域社会を形成することができる。

○ 八戸市長 小林 眞 氏 (パネリスト)

八戸市は、昔から移住者が多く、「よそ者」が地域を発展させてきた。芸術やアートにとどまらず、様々な人が集まり活動することによって、八戸の元気につながっている。

○ 総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課長 牧 慎太郎 (パネリスト)

都市機能や雇用の場を持つ都市と、豊かな自然を持つ周辺地域が圏域を形成する定住自立圏域の枠組みは非常に有効。高齢者がどれだけ頑張ったとしても、次の世代が続かないことには長く続かない。持続可能な地域づくりを行うためには、若者の力が不可欠。豊かな自然は若者を惹きつける。子どもが生まれる地域をつくりあげることができれば、活力ある地域づくりは十分維持できる。若者を地域に呼び込む手段として、総務省は「地域おこし協力隊」や「域学連携」など様々なメニューを用意している。



左から、小西氏、加藤氏、小林氏、牧課長

特別講演：地域力創造アドバイザー 椎川 忍 氏

定住自立圏の仕組みは非常に柔軟にできており、自治体の独自性にゆだねられている。地域間競争が激しくなる中、各自治体が自分の役割を把握して協調することが重要となっている。社会構造は、縦型構造から地方分権改革とICTによりネットワーク型の横型構造へと大きく変わった。自治体共通の地域課題については、人材やノウハウなど横のつながりを活用して解決を図る時代になっている。



椎川 忍 氏